

地域漁業学会

会 報

【発行】

地域漁業学会 事務局

〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20

鹿児島大学水産学部内

chiikioffice@gmail.com

Tel&Fax 099-286-4280

<http://jrfs.org/>

No.91

2013年3月

— 目 次 —

1. 第54回大会印象記

- 1) 第54回大会に出席して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 稲井 啓之
- 2) 日本における地域漁業の永遠の輝きと心意気・・・・・・・・ 末田 智樹

2. 第54回総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学会事務局

- 1) 53期決算報告
- 2) 54期予算計画
- 3) 学会賞等受賞者
- 4) 学会賞選考委員改選結果
- 5) 次期大会の開催地等について
- 6) 会則の改正について
- 7) 大会個別報告に関する規定について

3. 事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学会事務局

- 1) 科学研究費補助金のキーワード等について
- 2) 近畿部会と人文地理学会・歴史地理部会の共催研究会について
- 3) 住所変更等の連絡について
- 4) 銀行口座の変更について

1. 第54回大会印象記

1) 第54回大会に参加して

京都大学 稲井 啓之

第54回地域漁業学会に参加する機会を得られた。個別報告をはじめ、3つのセッションやシンポジウムでは、研究者のみならず、行政関係者、民間など様々な分野の方々が様々な地域の漁業について報告され、地域漁業を軸として広く深い議論が交わされていたことに感銘を受けた。

特別セッション「漁業主体の里海づくりと管理」や、シンポジウム「琵琶湖の『漁業環境』を考える一湖国と古都の関わりから」などでは、漁場というものをどのように捉えなおし、管理していくのかということの重要性を改めて考えることができた。

私は、アフリカ中部にあるカメルーン共和国のロゴヌ川氾濫原の漁村において、フィールドワークに基づいて漁民の移動性に関する人類学的研究をおこなってきた。カメルーンをはじめとするアフリカにおける漁業の特徴は、大規模な漁業経営体は少なく、大多数は零細な漁業主体によって成り立っていることである。近年、こういった零細漁師たちがアフリカ中の様々な漁場へ、手漕ぎ舟もしくは陸路などで長距離の移動を伴う出漁をする事例が多く報告されている。が、零細漁師の参入前後の「漁業環境」の動態や漁場・水産資源管理のあり方などについての研究は多くはなく、明らかにしていかなければならないテーマである。アフリカの一地域においても日本においても同様の問題点を有していたことは、地域漁業学会への参加によって得られた大きな成果であった。

国外における研究報告がやや少なかった。地域性、学際性、国際性を標榜する地域漁業学会の今回の大会では、アフリカにおける漁業研究の報告をすることで貢献したい。

そして、漁業に関する学会であるだけあって、懇親会に出てきた海産物や日本酒の立派さとその味には驚いた。このような有意義な大会や懇親会を企画・運営していただいた皆様に感謝いたします。

2) 日本における地域漁業の永遠の輝きと心意気

中部大学 末田 智樹

平成24年10月27、28日に京都市の立命館大学で開催された第54回大会に個別報告で参加させて頂いた。地域漁業学会に入会したばかりであったが、大会前の会報に2日目のシンポジウムを中心に事前準備について入念に書かれていたことは非常に驚いた。京都大会へ向けた意気込みが伝わってきたことは個別報告による参加意欲を十分に湧かせ、それ以上に熱心な先生方で構成された大会において学びたいという気持ちがこみあげてきた。

初日の午前中に「西海捕鯨業地域の巨大鯨組の成立条件―宝暦・安永期の益富組の成長過程にみる」という題目で報告した。この内容の中核的な史料は神奈川大学日本常民文化研究所所蔵の「漁業制度資料 筆写稿本」であり、伊藤康宏先生ならびに片岡千賀之先生を中軸に開催された水産史研究会での報告を踏まえてまとめたものであった。現代のホットな漁業問題について個別報告が展開するなか、グローバル的に騒がせている捕鯨業に関わった話とはいえ、江戸時代における西海地方の鯨組が藩を越えて広域的に活動したといった過去の地味な内容であったため、筆者は緊張感のなか場違いではないかと思いながら発表を試みた。ところが、質疑応答の時と報告後にも近世のみならず近現代の漁業史の視点から有意義なコメントを沢山頂戴し、大会初参加ながら報告の機会を与えて頂いたことに頗る感謝した。

他の個別報告と特別セッション「漁業者主体の里海づくりとその管理」の何れにおいても、現在の日本漁業が抱える問題・課題など切要な内容が次々と発表され、大変勉強になった。続いて午後からミニシンポジウム「わかさ美浜のへしこを育てる女性たち―伝統的な魚食文化を活かす―」が開かれた。地元の生産者と行政職員による連携・協働の地域振興事業の取り組みについての講演であり、しかも女性が一致団結し活躍している姿と生き生きとした声が聞けたことは格別印象に残った。というのは、このようなシンポジウムを初日から開催することに学会名に「地域」とつけられている理由を強く感じたからである。懇親会では、福井県美浜町の見事な名物料理「へしこ」が振る舞われ、その方々とお話することができ、地域に不可欠な個性ある豊かな魚食文化を一段と身近に感じる事ができた。

榎彰徳先生の号令により昼休みに大会参加者の記念撮影会が行われ、初参加ながら日本漁業の明るい未来を信じる先生方と一緒に撮って頂いた写真と、懇親会において新参者を迎えて頂いた温かい交流の輪は大きな宝物となった。来年度は鹿児島大会との説明を聞き、今後も積極的に参加したいという研究意欲で一杯になった。また漁業史のなかでの捕鯨業史の位置づけについて考察を一層深めたい思いにかられ、それに関わる多くの実りある示唆を一番のお土産に帰路についた。最後になりますが、

筆者に日本の地域漁業の永遠の輝きと心意気を教えて頂き、そのような大会の素晴らしい空間をあみ出した立命館大学地理学教室の河原典史先生を始めとする関係者の皆様に感謝の意を表します。

2. 第54回総会報告

1) 第53期決算報告

1.一般会計の部

(1)収入の部

費目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
前期繰越金	3,073,521	3,073,521	0
会費収入	1,850,000	1,628,000	(222,000)
一般会費	1,500,000	1,540,000	40,000
学生会費	200,000	78,000	(122,000)
団体会費	150,000	10,000	(140,000)
大会参加費	100,000	62,000	(38,000)
抜刷自己負担金	100,000		(100,000)
学会誌販売収入	300,000	267,044	(32,956)
投稿料収入	200,000	360,000	160,000
寄付金	0	100,000	100,000
雑収入	1,000	125	(875)
合計	5,624,521	5,490,690	(133,831)

(寄付金は近藤信義会員からのものである。)

(3)財産目録

種別	残高
銀行預金	1,142,937
郵便振替	1,411,932
現金	506,453
計	3,061,322

(2)支出の部

費目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
本部事務費	190,000	120,694	(69,306)
通信・郵送費	130,000	105,594	(24,406)
労賃・謝金	50,000	11,000	(39,000)
消耗品費	10,000	4,100	(5,900)
学会誌作成費	2,020,000	1,925,910	(94,090)
印刷費	2,000,000	1,925,910	(74,090)
労賃・謝金	20,000	0	(20,000)
消耗品費	0	0	0
名簿・会報作成費	0	0	0
理事会運営費	0	0	0
部会費(10,000*7部会)	0	0	0
委員会費(10,000*5委員会)	0	0	0
学会賞副賞費	100,000	54,400	(45,600)
大会準備費	400,000	292,715	(107,285)
(内要旨集印刷)	200,000	92,715	(107,285)
学術会議等団体活動費			
予備費	0	35,649	35,649
小計	2,710,000	2,429,368	(280,632)
次期繰越金	2,914,521	3,061,322	146,801
合計	5,624,521	5,490,690	(133,831)

2) 第54期予算計画

1.一般会計の部

(1)収入の部

費目	54期予算額	53期予算額	増減(54期-53期)
前期繰越金	3,061,322	3,073,521	(12,199)
会費収入	1,850,000	1,850,000	0
一般会費	1,500,000	1,500,000	0
学生会費	200,000	200,000	0
団体会費	150,000	150,000	0
大会参加費	70,000	100,000	(30,000)
抜刷自己負担金	50,000	100,000	(50,000)
学会誌販売収入	250,000	300,000	(50,000)
投稿料収入	300,000	200,000	100,000
寄付金	0	0	0
雑収入	1,000	1,000	0
合計	5,582,322	5,624,521	(42,199)

(2)支出の部

費目	54期予算額	53期予算額	増減(54期-53期)
本部事務費	190,000	190,000	0
通信・郵送費	130,000	130,000	0
労賃・謝金	50,000	50,000	0
消耗品費	10,000	10,000	0
学会誌作成費	2,020,000	2,020,000	0
印刷費	2,000,000	2,000,000	0
労賃・謝金	20,000	20,000	0
消耗品費	0	0	0
名簿・会報作成費	0	0	0
理事会運営費	0	0	0
部会費(10,000*8部会)	0	0	0
委員会費(10,000*7委員会)	0	0	0
学会賞副賞費	100,000	100,000	0
大会準備費	200,000	400,000	(200,000)
(内要旨集印刷費)	100,000	200,000	(100,000)
予備費	10,000	0	10,000
小計	2,520,000	2,710,000	(190,000)
次期繰越金	3,062,322	2,914,521	147,801
合計	5,582,322	5,624,521	(42,199)

3) 学会賞等受賞者

2012年の地域漁業学会(京都大会)において、以下のとおり、中楯賞の受賞が決まりました。なお、学会賞と柿本賞は該当がありませんでした。

<地域漁業学会奨励賞(中楯賞)>

河原 典史 会員(立命館大学)

「水産移民に関する歴史地理研究」

このたび地域漁業学会奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。

受賞の場に、修士論文での調査以来お世話になっている福井県美浜町の方々が、ミニシンポの登壇者として同席されていたことも、何かのご縁と思います。そして、柿本典昭先生には、天国に向かって今回の受賞のご報告とお礼を申し上げます。私を水産移民の歴史地理研究に導いてくださったのは、大学院博士課程在学時に対馬の日韓合同調査に参加を勧めていただいた柿本先生にほかにありません。それを契機に、瀬戸内海から対馬、さらに韓国済州島へと移動する水産移民について本格的に調査を開始しました。やがて、それはカナダでの日本人水産史の研究へ展開するようになったのです。今回の受賞を励みに、そして甘えることなく、今後とも研鑽を重ねて参ります。本当に、ありがとうございます。

増崎 勝敏 会員(大阪府立旭高等学校)

「漁撈民俗学に関する実証研究」

私はこれまで、高等学校の教壇に立ちながら、漁撈民俗学の研究に携わって参りました。「野にある者」として本賞を頂戴し、光栄に存じます。有り難うございました。

「なぜ漁業の研究を?」と尋ねられます。自分でもうまく答えられませんでした。しかし、高知のある漁村で、家族の心配をよそに嬉々として船を運ぶ老漁師の姿を見て、彼をオキへとつき動かしている何かに、私の学問の根底があるのだと感じました。

民俗学で漁撈を手がける研究者は多くありません。それゆえに、この分野での研究に微力ながら貢献すべく励んでゆきたいと思えます。

4) 学会賞選考委員改選結果

理事会で半数改選の選挙が行われ、磯部作、伊藤康宏、山下東子、加藤辰夫の各氏が新委員に選ばれました。また、磯部氏が新委員長に選出されました。現在の学会賞選考委員は以下の通りです。

学会賞選考委員会

- ◎磯部 作(日本福祉大学) # ・伊藤 康宏(島根大学) #
- ・加藤 辰夫(福井県立大学) # ・山下 東子(明海大学) #
- ・若林 良和(愛媛大学) * ・山尾 政博(広島大学) *
- ・濱田 英嗣(下関市立大学) *

注:学会賞選考委員会の*は2013年9月、#は2014年9月任期を示す。◎印は委員長である。

5) 次期大会の開催地等について

次期第55回大会は、九州・沖縄部会のお世話により、鹿児島大学で開催されることになりました。現在のところ、日程と会場は以下の通りで計画しております。多数のご参加をお願いいたします。

日程 2013年10月26日(土)~27日(日)
会場 鹿児島大学水産学部

6) 会則の改正について

地域漁業学会会則の改正が理事会および総会で審議され、原案通り了承されました。会員が会費を滞納した場合の退会基準を明確にしたものです。旧会則にアンダーラインを加え、二本線を削除したものが改正後の規則になります。新たな会則全体は学会のウェブサイトでご確認ください。

地域漁業学会会則第7条 (退会)

第7条 退会を希望する者は、理事会に書面で申し出るものとする。

また理事会は、会員が会費を長期3年以上滞納したときは、総会の承認を経て退会させることができる。

7) 大会個別報告に関する規定について

地域漁業学会ではこれまで定められていなかった大会個別報告資格について、理事会で以下の提案がありましたが、団体会員の1大会あたり報告数に関し議論があり、継続審議になりました。この件についてご意見がありましたら本部事務局までお知らせください。

地域漁業学会 大会個別報告に関する規定(案)

1. 大会における個別報告者は、地域漁業学会の会員に限る。但し、筆頭者以外の共同研究者に非会員が含まれることはさしつかえない。
2. 個人会員が筆頭者となるのは、1大会で1報告までとする。団体会員および賛助会員は1大会2報告まで、当該会員に所属する者が筆頭者として報告できる。

3. 事務局からのお知らせ

1) 科学研究費補助金のキーワード等について

文部科学省の科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表が平成25年度申請分から改正されており、分野名「農学」細目名「水圏生産科学(旧水産学一般)」のキーワードに「漁村社会・水産政策」、および「水産経済・経営・流通」、が加わりました。会員の皆様が申請する際には必要に応じてご活用ください。

2) 近畿部会と人文地理学会・歴史地理部会の共催研究会について

地域漁業学会・近畿部会と人文地理学会・歴史地理部会の共催で下記のような研究会が大阪で開催されます。お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

■テーマ：「漁業をめぐる地理学・歴史学研究への誘い」

■日時：2013年5月11日(土) 14:00~17:00

■場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス

(大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー14階)

JR「大阪」駅、阪急・阪神・地下鉄「梅田」駅下車)

■研究発表：

服部亜由未(名古屋大・院)

「従事者の行動から見た漁業史」

鎌谷かおる(神戸女子大・非)

「『漁業史』との出会い、そしてこれから—歴史学の立場から—」

■コメント：

林紀代美(金沢大)

「『漁業、魚、海をとおして見つめる地域—地理学からのアプローチ—』の編集に携わって」

■司 会：河原典史（立命館大）

■趣 旨：漁業について人文科学的立場から研究する場合、居住の場である漁村と生産の場である漁場へアプローチがある。その手法について歴史地理学、そして隣接科学の歴史学では共通性があるものの、異なる点も少なくない。

両学問とも、漁村と漁場の歴史的な人間活動を明らかにするため、方法論や資料の活用の特徴があり、相互に刺激を受けることも多い。しかしながら、漁業に関する地理学・歴史学研究への興味・関心は、他のテーマに比べて必ずしも高くないように思われる。本研究会では、漁業をめぐる研究への出会いとその後の進展、そして今後の展開について地理・歴史学の立場から話題が提供される。学部生・院生をはじめ、若手研究者の積極的な参加を期待したい。

3) 住所変更等の連絡について

住所や連絡先を変更した会員はお早めに事務局までメール、ファックス、郵便等でお知らせください。特に春は転勤や卒業・修了がきっかけで連絡が取れない会員が増加する傾向にあります。学生会員の指導教員の方も、お手数ですがご指導をお願いいたします。

4) 銀行口座の変更について

金融機関の支店統合により、地域漁業学会の銀行口座が下記の通り変更になりましたのでご注意ください。郵便振替の場合は変更ありません。

旧支店・口座番号：鹿児島銀行きしゃば支店 普通 834624

新支店・口座番号：鹿児島銀行鴨池支店 普通 3354886

地域漁業学会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20

鹿児島大学水産学部内 Tel&Fax 099-286-4280

担当 佐久間美明 chiikioffice@gmail.com

郵便振替：01750-0-83886 銀行振込：鹿児島銀行 鴨池支店 普通 3354886